

第2回北区岩淵周辺地区かわまちづくり計画協議会 議事要旨	
開催日時	令和6年7月11日（木）18時00分～20時00分
開催場所	荒川下流河川事務所1階 アモアホール
出席者	《委員》 【学識経験者】 ・荒巻 俊也 委員（東洋大学 副学長／国際教育センター長 国際学部教授） ・二井 昭佳 委員（国土舘大学 理工学部教授） 【地域関係団体等】 ・土井 富美子 委員（北区・子どもの水辺協議会） ・織戸 龍也 委員（株式会社岩淵家守舎代表取締役） ・中林 徹 氏（一般社団法人東京北区観光協会事務局次長） 【北区関係職員】 ・吉田 直人 委員（北区 政策経営部 シティブランディング戦略課長 地域振興部 産業振興課 副参事 観光振興担当） ・長久保 英邦 委員（北区 防災まちづくり担当部 防災まちづくり担当課長） ・荒井 和也 委員（北区 土木部 道路公園課長） 《オブザーバー》 ・菊田 友哉氏（国土交通省 関東地方整備局 荒川下流河川事務所 所長） ・渡辺 健一氏（国土交通省 関東地方整備局 荒川下流河川事務所 副所長） ・山崎 明日香氏（国土交通省 関東地方整備局 荒川下流河川事務所 流域治水課長） ・作田 大氏（国土交通省 関東地方整備局 荒川下流河川事務所 地域連携課長） ・平田 智子氏（国土交通省 関東地方整備局 荒川下流河川事務所 地域連携課専門官） ・黒田 裕夫氏（国土交通省 関東地方整備局 荒川下流河川事務所 地域連携課専門官） ・鈴木 裕章氏（東京都 建設局 河川部計画課 河川利用促進担当 課長代理） 《事務局》 ・北区 まちづくり部 まちづくり推進課
開催形態	公開
次第	1. 開会 2. 議事 （1）第1回協議会の振り返り （2）かわまちづくりのビジョンについて （3）ゾーニング・利活用案について （4）推進体制について 3. 次回の日程について 4. 閉会
議事要旨	<u>議事：（1）第1回協議会の振り返り</u> 事務局より資料（3～6頁）の説明。 【ご意見】 ○（委員）過去のAKABANE PICNIC FESTAでドッグランを行ったことがあります、

好評だった。ドックランがあることでその場所の魅力も増すので、ペット連れもターゲットの一つとして、注目してもいいと思う。

- （委員）河川敷にある北区子どもの水辺に、環境学習で多くの人が来ているので、ターゲットに「水辺で学ぶ」というところがあってもいいかなと思う。ドッグランや環境学習はターゲットだけでなく、活用アイデアに含めてもよいと思う。
- （副会長）意見のまとめかたとして、ターゲットを「かわ」と「まち」で分けず、「かわ」と「まち」の両方を利用してもらうように整理した方がよいと思う。
- （事務局）資料の6頁にいただいた意見について事務局で反映させていただく。

議事：（2）かわまちづくりのビジョンについて

事務局より資料（7頁）の説明。

【質疑応答】

- （委員）ビジョン案で交流拠点という言葉が使われているが、「かわ」なのか「まち」なのかわかりにくい。また、拠点は、ある限定された範囲やゴールという印象を与える可能性がある。回遊性等のイメージが伝わる言葉がいいと思う。
- （委員）ビジョン案と方向性についての関係性を確認したい。ビジョンとは「目指すべき姿」で、方向性とは「目指すうえで進めていくべきこと」という認識でいいのか。
- （事務局）そのとおりである。
- （委員）かわまちづくりでは、北区内だけをターゲットとする必要はない。岩淵や志茂等の地名が含まれているが、区外の方からの認知度は低いのではないかと思う。一方で、赤羽という地名を使用するとかわまちづくりの対象範囲より大きくなる可能性がある。区外の人たちにもわかりやすいようなビジョン案にするとよいと思う。
- （会長）ビジョンに地名を入れる場合、認知度の観点からも検討していくことにしたい。
- （副会長）方向性は良いが、対象エリアを「にぎわいのある空間」にしたいのか、「自然豊かな空間」にしたいのか、どういう場所にしたいのかを先に議論した方がよいのかもしれない。私は岩淵や志茂といった地名についてこのままでも問題ないと思った。ビジョン案には「かわ」に関する地名が多いので、志茂旧道のような「まち」側の言葉をいれてもいいと思う。
- （会長）ビジョン案について当面は案という位置づけであり、今後に変更できるという認識でいいのか。
- （事務局）そのとおりである。
- （委員）方向性の1つ目の文章と2つ目の文章が似通っているため、融合してもいいと思う。3つ文章をいれるのであれば、違うアプローチ、たとえば自然を維持していくなどがあっても良いかもしれない。
- （委員）方向性について、エンターテインメントの視点は多くあるが、防災の観

点も加えてほしい。防災とエンターテインメントを融合させてもいいと思う。

○（委員）これらの案は「かわ」よりの発言になりがちなのではないか。昔のこのエリアは宿場町であり、宿場町といったキーワードも入っていいと思う。または、「まち」のなかに「かわ」があるという認識が良いのではないかと思う。

○（委員）私は八雲神社や荒川知水資料館をめぐるコースの観光ガイドをやっていたが、以前と比べ、そのコースが非常に人気であると聞いている。赤水門が重要文化財になることも活かし、より魅力を引き出し、観光の観点から人を引き込めると思う。

○（副会長）渡し跡もあるが、昔のこのあたりはどういった場所だったのか。どういう生業のまちだったのか。

○（委員）昔はこのあたりは“渡し”で荷物を運んでおり、川口と小さな宿場町であった。小山酒造がなくなったことで、寂しい感じがする。お酒を目当てに来ていたお客さんも多い。

○（会長）これまでの意見をまとめると、拠点という言葉より広い範囲を示す言葉がよい、赤羽という地名をどのようにビジョン案の中に入れるかということ、また、まち側の歴史的な観点も加えてアピールしたい、さらに、「自然」がキーワードになってくると思う。

○（事務局）いただいた意見を踏まえ、事務局で案を作成する。このあと説明する活用案などと、合わせて議論できればと思う。

議事：（３）ゾーニング・利活用案について

事務局より資料（８頁～１４頁）の説明、オブザーバーよりサウンディング調査結果の紹介。

【質疑応答】

○（委員）サウンディング調査の結果で、「amoa カフェ」とあるが、何をしたいのか教えてほしい。

○（委員）荒川放水路にゆかりのある青山士氏は、パナマ運河ともかかわりがある。アモア（荒川知水資料館 amoa）の活用は、休日にはパナマ産コーヒー「ゲイシャ」を提供するカフェ、平日はコワーキングスペースとしての活用が考えられる。

○（委員）誘導の視点では、防災上の観点を含めるといいと思う。防災まちづくりの観点では、「岩淵町まちづくり協議会」があり広場を整備したり道路を広げたりしている。皆様の協力を得ての実現となるので先の話にはなるが、「かわへの誘導」のところで道路を拡幅することも考えられる。また、イベントの仕掛けの一つとして、青空シアターで防災に関する内容を入れてもいいと思う。そのような工夫でまちのPRをするのも一つのアイデアだと思う。

○（会長）誘導の視点は来街者の視点で考えていたが、同時に防災の観点にもつながると思った。

○（委員）私はアモアのボランティアをやっているが、最近は初めて来館される

方が増えている。50～60 人ほどの団体で地方から来てくださるお客さんもいる。来館者に話を伺うと、災害などに興味がありアモアは特有の施設だと言っていた。アモアはみんなが知らないところで、様々な観点から認識されていると痛感している。

- （会長）アモアは河川環境や防災の観点からユニークな施設であると思う。
- （委員）イベントをする側の視点が欲しい。利用スペースとして、滞在時間を増やすような仕掛けも欲しい。荒川での滞在時間を長くする屋内スペースは今、アモアしかないため、寮の空き部屋など、未活用の空間の活用、屋内のスペースの増加をしてほしいと思う。
- （委員）サウンディング調査の結果をみると、「かわ」のポテンシャルが高く、事業に参加したいという意見が多いと思った。一方で、いかに来てもらえるか、「まち」に寄ってもらうかという観点では、地域の方と地域の魅力を掘り下げていきたいと思う。
- （副会長）「河川敷で1日過ごせる場所」というのは良いと思うが、そのためには屋内空間も必要だと思う。また、サウンディング調査の結果では非日常的な、イベント的な活用方法の案が多いが、平日の利用者が少ないという意見があるので、平日に、日常的に立ち寄れる場所にするためには何が必要なのかを考えることが重要だと思う。現状、バーベキュー場があり、川の近くでバーベキューができるのは良いことだと思うが、柵で囲われていて閉鎖的である。河川敷での強い目的がない場合に堤防の上を歩くくらいしか選択肢がないため、目的を伴わなくても滞在したくなるような場所があるといいと思う。バーベキュー場もできるだけ、オープンな使い方ができるといい。例えば、あのあたりは一番利用しやすい場所だと思うので、腕章を活用し、柵を使用しなくても利用者を識別できるようにするといった、仕掛けがあるといいと思う。
- （委員）アモアは無料なのかと聞かれることも多く、本当にここに入っているのか不安になると言われることも多い。無料という旗はあるが利用者にはわかりづらいと思う。もっと無料であることをPRしたい。
- （会長）平日の利用客をターゲットとし、アモアを滞在空間として利用してほしいと思う。先日、杉山委員とさくら祭りの話をする機会があったが、数千人のレベルで人が集まっていたと聞いた。多い日は1万人を超えたそうだが、どうやってアクセスして来たのかということが気になった。
- （委員）「amoa カフェ」をやるとなると、事業として継続する工夫が必要である。たとえば、3階に厨房設備がないため改装が必要であり、ごみの処理方法はどうするのかといった問題がある。これらの対応を誰が実施するのか、Park-PFI制度を活用するのか、ほかの事業者を探して実施してもらうのかが気になる。事業者が入るかは継続性の観点が大切なので、これも重要な視点になると思う。
- （会長）これまでの意見をまとめると、利活用案は来街者向けの視点多いが、地域の方への視点も重要である。サウンディング調査結果では、事業者はイベントに注目しているが、恒常的に人が入るような仕掛けができればよいと思う。

事務局よりハード面整備に関する資料（１５頁～１８頁）の説明。

【質疑応答】

- （委員）既存の「かわ」へアクセスする距離が遠いと思っている。橋を一本増やすのはどうか。新河岸川の桜を見る際には、新志茂橋近くの平場の方が見やすい。この新河岸川の平場をより活用することはできないのか。季節によってはバーベキュー場として開放するのもよいと思う。
- （副会長）現在のバーベキュー場付近の土手の傾斜は緩いのだが、シートを敷いて利用している人が少ない。シートを敷いて利用できるような空間としてはどうか。岩淵橋からバーベキュー場に行く際には、バーベキュー場から遠ざかるようなルートとなっており、動線が人に優しくないと思う。アモアへ行く坂道は逆坂路（ぎゃくはんろ：傾斜のある走路が川の流れに対して逆向きに配されていること）となっていて、河川計画上好ましくないと思う。天端（てんば：堤防及び土手の上面部分）を広げることや、人が移動しやすい動線としてほしい。新志茂橋は車のルートなので問題がないが、岩淵橋は、橋を渡ってさらに階段を上らなくてはいけない。いきなり天端にアクセスできるような橋があってもいいと思う。赤水門前のデッキも残念である。幅が狭いため、通路にしかない。デッキの上に座していると具合が悪いのではと疑われそうなので、滞在できるようなデッキとなるといいと思う。バーベキューのように目的がある人は、一番良い場所でなくても行くと思う。例えば利活用案の多目的空間とかにバーベキュー場があっても問題ないと思う。一番良い空間は常にオープンにしておき、誰でも使用できる状態が良いのではないかな。あそこに行ってみよう、と思える空間となるのではないかな。
- （会長）デッキの部分は赤水門を見る際や、写真を撮る際に一番良い地点だと思う。多目的広場に降りると水面が見えなくなる。河川敷にいるのに「かわ」を感じられないのは残念である。アクセス性についても、もう少し改善したい。
- （副会長）赤羽岩淵駅から岩淵橋へアクセスする道は、狭いかもしれないが、歩行者にとってはむしろ良いと思う。しかし、初めてくる人にとってはわかりづらい。舗装など、直観的に分かるサインが欲しい。また、数軒でも魅力的な店が増え、なにか楽しい空間にイグなわれるような道となることが目標だと思う。
- （委員）赤羽岩淵駅から岩淵橋へアクセスする道は、防災まちづくりで着目されているのだが、意外と車が通るため、歩行者と車の動線を分離するなど工夫する必要がある。北本通りが混んだ際に、赤羽岩淵駅から岩淵橋へアクセスする道が新荒川大橋までのショートカットルートとして使用される。
- （会長）河川の法面（のりめん：川の堤防の斜面部分）を活用し、滞留できるところを作るというのも案としてあるかもしれない。また、河川空間のオープン化を目指す例が示されたが、民間の建物を建てることは難しいのではないかな。
- （副会長）堤防の上に幅があれば可能かと思う。今回の議論で出た意見につい

ては実現するまでの時間を長期的な視点、短期的な視点でイメージする必要がある。歩行者の動線など、施設の設置については、比較的短い時間で実施できると思う。

- （副会長）アモアの活用では、3 階まであがらないといけないのは大変である。また、アモアが堤防の上にないということも問題だと思う。アモア一帯を避けるように堤防があるが、アモア一帯が堤防の上になれば、自然と利用できるようになると思う。アモアは地域にとって大切な施設で、また事務所もあり、あまり使われていない寮があるということで、長い目で見ると、アモア一帯をどうするか考える必要があると思う。
- （会長）スーパー堤防という視点もあると思う。

議事：（４）推進体制について

事務局よりハード面整備に関する資料（１９頁）の説明。

【質疑応答】

- （委員）社会実験について、平成 30 年度にやった記憶がある。船をチャーターして、青水門などを訪れた。非常に好評であった。足立区都市農業公園の方へ行くルートもやっていたが、それも好評であった。
- （事務局）船のイベントは社会実験で行っており、集客という点ではよかったが、事業としては難しいという判断であった、と記憶している。
- （委員）ほかの都市との連携を、かわまちづくりを通して、荒川の水路を使いながらやっていくことは重要だと思った。
- （会長）社会実験はイベントという観点が大きいですが、ハード整備は長い目で行っていかねばいけないと思う。社会実験と相性のよい内容、悪い内容とがあると思う。ハード整備は一回いれると長期的に実施するものであるため、最初からきっちりと考えていく必要がある。
- （委員）社会実験で、水道の位置やパーゴラ（日陰棚）の位置などの意見が得られると思うので、ハード整備を行うための社会実験という観点もあると思う。
- （副会長）事業者としては採算をとれるのかという観点も重要である。社会実験の規模や費用にもよるが、最終的なハード整備に取り組むうえで、社会実験は参考になると思う。
- （委員）社会実験はデザイン思考でユーザー視点の設計を行った上で整備を行うことになる。1 回の整備で成功させる必要はなく、失敗して学びを得ることも重要だと思う。長期で物事を進める、切替えのタイミングだとも思う。
- （委員）社会実験を実施する際に、占用料がかかる。何カ月でいくら、とするのか、無料にするなどを設定して事業者を募る必要がある。河川敷の面積も広いので費用がかさんでくる。このあたりの規制緩和が必要であると思う。
- （副会長）推進体制はどのくらいの期間を見据えているのか。具体的に、どのエリアがどのような空間になるのか検討しなければならない。ステップの中に、しっかりと空間を検討する段階を入れてもらわないと単発の対策となってしまう

う可能性がある。事業を全体でとらえる視点が必要である。

- （委員）サウンディング調査で、河川占用の煩雑さに関する意見と河川の緊急対応が課題として出ている。出水時には一時的に撤去しなくてはならないという制約がある中で何ができるかという条件を整理しておく必要がある。与条件について事業者も含めて整理しつつ、基盤をどのように整備するか、河川管理者から意見をもらいながら、何ができて何ができないのかを考えていかなくてはならない。短期的にできそうなもの、長期的にできそうなものという観点でも整理する方が良いと思う。
- （会長）非常に重要な視点だと思う。

全体を通してのご意見

- （委員）「まち」側でのイメージとして、「まち」から「かわ」へアクセスするルートの舗装路など視覚的な効果やサイン的な効果の工夫があるといいと思う。
- （委員）整備イメージの対象エリアにある多目的広場は、ぬかるむと数日間使えなくなってしまう。かつて、エレファントカシマシのコンサートを検討した際にも敷板を敷かなければならず費用面で断念した。整備イメージで示されている写真のように、一部分でもよいので舗装されていると、利用用途が飛躍的に増えると思う。
- （委員）荒川放水路 100 周年記念として、デザインマンホールを 3 個ほど作成予定である。位置は、岩淵橋付近、新志茂橋付近、赤羽駅付近で考えている。次回以降話が進展したら、また報告させていただく。
- （委員）デザインマンホールを設置している場所の近くで、マンホールカードを配ることがあり、そのカードは非常に人気である。例えばそのマンホールカードをアモアに置けばカードが欲しいという人が集まるきっかけになると思う。

次回の日程について

- 次回の第 3 回協議会は 10 月 23 日（水）16：00～開催とする。

以上